

角運動量と力のモーメントの関係 → 角運動量保存則

角運動量と力のモーメントの関係：「粒子の角運動量の時間的变化率は、粒子が受けた力のモーメントに等しい。」より

角運動量保存則：「外系より力のモーメントが作用しない限り、粒子のもつ角運動量は保存される。」を導出する。

[注] 太文字の記号はベクトルを表示する。

$$\mathbf{N} = \frac{d\mathbf{L}}{dt} = \frac{d}{dt} [mr^2\boldsymbol{\omega} - m(\mathbf{r} \cdot \boldsymbol{\omega})\mathbf{r}] \quad : \text{ 角運動量と力のモーメントの関係}$$

ただし \mathbf{N} は力のモーメント、 \mathbf{L} は角運動量、 t は時間、 m は粒子の質量、 \mathbf{r} は位置、 $\boldsymbol{\omega}$ は角速度である。ここで 位置を表すベクトル \mathbf{r} は動径ベクトルとも呼ばれる。

$$\mathbf{N} = \frac{d\mathbf{L}}{dt} = \frac{d}{dt} [mr^2\boldsymbol{\omega} - m(\mathbf{r} \cdot \boldsymbol{\omega})\mathbf{r}] \quad \text{において}$$

力のモーメント $\mathbf{N} = 0$ のとき、

$$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \frac{d}{dt} [mr^2\boldsymbol{\omega} - m(\mathbf{r} \cdot \boldsymbol{\omega})\mathbf{r}] = 0$$

よって $\mathbf{L} = mr^2\boldsymbol{\omega} - m(\mathbf{r} \cdot \boldsymbol{\omega})\mathbf{r} = \text{一定}$: 角運動量保存則

粒子が半径 $r = |\mathbf{r}|$ の円軌道上を運動する場合には、動径 \mathbf{r} と角速度 $\boldsymbol{\omega}$ は常に直交するので、 $\mathbf{r} \cdot \boldsymbol{\omega} = 0$ となり、前述の角運動量保存則は次式のように記せる。

$$\mathbf{L} = mr^2\boldsymbol{\omega} = \text{一定}$$

ここで 慣性モーメントと呼ばれる量 $I = mr^2$ を定義すると上式は次のように簡潔に表せる。

$$\mathbf{L} = I\boldsymbol{\omega} = \text{一定}$$